

発行：港区議会議員 阿部 浩子
住所：港区麻布十番 2-4-1-201

TEL/FAX：070-9103-6477 E-mail：abehiroko7@gmail.com
URL：http://www.hiroko-abe.com

港区議会議員(立憲民主党) ひまわり通信

あ べ ひろ こ
阿部 浩子

命と暮らしを最優先!!



令和6年第1回港区議会定例会 (2月14日～3月13日)

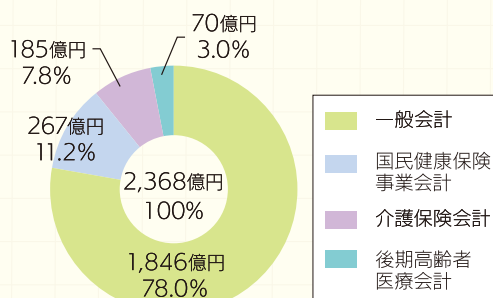
令和6年度予算総額 2,386億 2,938万円を可決

一般会計は1,845億9,000万円、国民健康保険事業会計、後期高齢者医療会計、介護保険会計の3特別会計をあわせた令和6年度予算は2,386億2,938万円。

令和6年度予算は、「アフターコロナに向けて、にぎわいとやさしさに満ちた港区へ力強く踏み出す予算」とし、区立小中学校給食費の無償化、区内共通商品券の発行と電子商品券改善の支援、在宅避難支援の充実・強化、高齢者の居宅等の訪問強化などが計上されました。

歳入の根幹である特別区民税収入は884億円で過去最高額の計上。

令和6年度予算



災害に備えて万全な準備を!

今年の元旦に能登半島でマグニチュード7.6の地震が発生しました。心からお見舞いと被災地の一日も早い復興を願っています。災害はいつ起こるかわかりません。そのためには万全な準備が必要です。来年度予算では、災害時の要配慮者への災害時自動安否システムが導入されます。3月に修正された港区地域防災計画を確実に実行していくことが重要です。



物価高騰で生活が厳しい世帯に寄り添った支援を!

国では政治とカネの問題で国民の政治への不信は頂点に達しています。真の政治とは、災害で避難されている方々や物価高騰で厳しい世帯への支援、困っている方に寄り添うことです。私はこれからも命と暮らしを最優先する政治を港区からつくっていきます。

阿部 浩子

令和 6 年度予算特別委員会



阿部浩子の議会報告



—— 令和6年第1回定例会で区長・教育長に質問しました ——



■7割の確率で発災する大地震に備えて

質問：区は、災害時に約3万9千人が避難所生活をする予測。避難所の暑さ・寒さ対策は万全か。

答弁：避難者1人当たり2枚の毛布を約12万7千枚、マット、カーペットを約6万3千枚備蓄。カイロや冷風機、扇風機等も全ての避難所に配備済。

質問：災害時にはトイレが問題になる。災害用トイレの備蓄は十分か。誰もが利用しやすい清潔なトイレが必要。不衛生では感染症が拡大する。対策についての考えは。

答弁：マンホールトイレ、女性用テント、予備の携帯トイレ等の備蓄を進めるほか、避難所では地域防災協議会で調整し、避難者がトイレの清掃を持ち回りでを行い、清潔に保ち、感染症に配慮する。

質問：町会等の一時避難所になる公園に、井戸を掘削する地域要望がある。災害時の生活用水として網代公園内に井戸の設置を。

答弁：網代公園にはかまどベンチを整備した。災害対策井戸の設置は検討していく。

質問：港区の避難所ではペットは同行避難であり、同室避難はできない。居住場所と動物との動線をわけ、同室避難を検討すべき。

答弁：地域防災協議会や飼い主との意見交換、他の自治体の事例、東京都獣医師会からの助言を受けて、同室避難の可能性を研究する。

阿部浩子の
考え



能登半島の避難所でもトイレを我慢して水分を取らない、真冬の寒さ対策、ペットと一緒にいるため自動車で生活等、改善すべき問題が多々あった。水道が止まっているため生活用水もない状況。近隣に井戸があれば生活用水になるのではないのでしょうか。

避難所となる東町小学校では上総掘りの井戸を2010年に地域の方々に共に作りしました。

また、避難所運営には女性の視点を。リーダーは男女1名ずつ配置すべきです。



■旧麻布保育園等用地について

質問：旧麻布保育園等跡地は、昨年更地になり、地域の餅つき大会で賑わった。この土地は地域の課題解決のために活用し、本格活用がされる前にも地域のコミュニティの場にしてほしい。

答弁：現在、埋蔵文化財の調査対象地であり、本格活用に向けた具体的な検討をしている。区は、区民との意見交換の場を設けるとともに、行政課題の解決や地域要望に応える活用について、早期に実現していく。



阿部浩子の
思い



旧麻布保育園の隣地は、平成12年に454㎡を3.4億円で、平成17年に17.5㎡を1,312万円で森ビル㈱から購入。解体工事の調査では近接擁壁が老朽化、地盤は軟弱のため、解体を一時断念。18年の時が経ち、昨年解体。本格

活用は、地域のコミュニティのための施設として整備していくべきです。

■介護職員の確保について

質問：区内でも介護人材がひっ迫し、深刻なヘルパー不足。国では2022年の介護分野の離職者が入職者を約6.3万人も上回った。理由は全産業の平均賃金より月7万円低いという労働条件。2024年度からの介護報酬改定では、訪問介護の報酬は減額。このままでは介護の崩壊が迫っている。介護人材を増やしていく新たな取り組みを。

答弁：訪問介護職員の研修費用やケアマネジャーの資格取得等のための助成、介護人材の定着をはかる。

■中小企業、商店、飲食店等の人材確保を

質問：コロナ禍以降、人材不足が顕著。港区の景況調査の課題は、人材不足、人材育成、販路拡大。アルバイトの雇用も含めて人材不足の解決を。

答弁：求人広告掲載料の補助制度、人材紹介会社への手数料等、補助上限額を100万円まで引き上げ、区内中小企業や商店街店舗等の人材確保活動への支援を強化している。事業展開を強力に後押ししていく。

■今後の海外修学旅行について

質問：中学生の修学旅行は海外ではなく、日本の文化や歴史にふれあう事と過去の戦争における平和学習が必要。今後の中学生海外修学旅行の継続にあたっては効果を検証し、国際人育成のために真に必要なのか判断すべき。

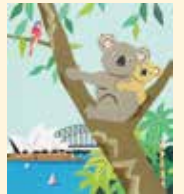
答弁：実施後全ての参加生徒を対象に、意識や行動の変容などの調査で検討する。

阿部浩子の
考え



毎年、小学校6年生と中学校2年生は各40名がオーストラリアに海外派遣に行っている。この事業費は1人100万円以上。つまり、来年度の中学3年生は2年にオーストラリア、3年にシンガポールにいく生徒もいる。重複すべき

ではない。ホームステイの海外派遣は、小学生のみにする等検討が必要です。また、中学校で行っている長野の移動教室、新潟への夏季学園を見直し、京都や奈良へ行き、日本の歴史や伝統文化を学ぶべきです。1人38万円かかるシンガポール修学旅行は、区民の意見を十分に聞き、国際理解教育の総仕上げは中学生なのか真剣に議論すべきです。



■学校給食の無償化について

質問：区立と特別支援学校だけではなく、私立等のすべての児童生徒に拡大すべきです。

答弁：私立学校等に在籍する児童生徒の情報を収集・分析するとともに国や東京都の動向を注視し、総合的な支援を検討していく。

■妊婦健診の助成額の引き上げを

質問：妊婦健康診査助成事業が平成18年度から始まって20年近く。しかし、助成金額は5千円から90円しか上がっていない。妊婦の経済的負担を軽減するため、実態調査と健診費用の助成拡大を。

答弁：都内が一律の助成金額であり、港区だけ額を上げることは困難。実態について調査していく。



■羽田空港新ルート固定化回避について

質問：令和4年8月から1年7カ月も固定化回避の検討会が開催されていない。1月に区長と議長は、「住民説明会の早期開催、羽田衝突事故の再発防止策の徹底等について」国土交通省に要請した。区民の不安な声を受け止め、国に改善策を求めていくべき。

答弁：引き続き国に対して、定期的な意見交換の場や、あらゆる機会に、海上ルートの活用、地方空港の活用等による飛行ルートの分散化、固定化回避の検討を加速するとともに、区民の不安や疑問を払拭する丁寧な説明を求めていく。

予算特別委員会質問

【総務費】

- 避難所の運営リーダーの男女比率は。
- 防災士の有資格者は地域防災協議会で活動を。
- 能登半島地震を受けて追加した防災備蓄は。
- 災害時をシュミレーションした訓練実施を。
- 在宅避難の必要性の周知を。
- 消防団の活動場所の支援を。



【民生費】

- 成年後見人制度の利用促進と市民後見人の育成を。
- 高校生の居場所に、心や身体の悩みを打ち明けられるユースクリニックの設置を。
- ニーズが高い生理用品配布事業の拡大を。
- 高齢者民間賃貸住宅入居支援事業の周知を。
- ひとり親フードサポート事業の充実を。

【環境清掃費】

- フードドライブ事業で不要な食品を循環させる仕組みの強化を。

【土木費】

- 麻布十番通りの定期的な道路清掃を。
- 小規模ドッグランの早期開設を。
- 区内おもてなしトイレの整備計画の策定を。
- 首都高下に（仮）赤羽橋駅駐輪場が整備される。大型自転車も利用しやすい駐輪場へ。

【教育費】

- 海外派遣事業は、中学生を一旦中止し、ニーズが高い小学生の拡大を。
- 海外留学支援事業は大使館との交流を。
- 不登校児童生徒の状況把握と課題の分析を。
- 不登校特例校については児童生徒に寄り添った学校へ。

【産業経済費】

- 商店街イベントは警備員やごみ処理代が高騰。実態把握をし、必要な支援を。
- 消費喚起のためのポイント還元事業で商店街支援を。

【国保会計】

- 子ども1人あたりの均等割りをなくすべき。

詳細は
HPに



阿部浩子

検索



あべひろこの活動

【NPO 法人みなと子ども食堂の活動】

みなと子ども食堂は1月で9年目になりました。区内のひとり親で生活が厳しい約200世帯を応援しています。

増上寺でのお米や野菜等の食料品等配布、手作りお弁当の配布、小学生への学習支援。4月からは毎月2回子ども食堂を麻布いきいきプラザで開催します。引き続き、生活が厳しい子育て世帯を応援していきます。

皆様の物資等のご寄付をお待ちしております。

☎080-7960-0207

みなと子ども食堂



利用やご寄付の詳細はこちら



あべひろこの思い

区民サービスには優先順位が必要です。

海外修学旅行が港区の義務教育の総仕上げではなく、不登校で苦しんでいる児童生徒、給付型奨学金の拡大、そして、生活困窮世帯、被災地等、支援を必要としている方々がいます。中学校海外修学旅行は、区民の方々の声に耳を傾けるべきです。

物価高でも賃金が上がらない家庭が大半です。年金を受給している方々、より生活が厳しくなっています。介護は人材不足。区の課題は優先順位をつけて解決していくべきです。



あべひろこ プロフィール



- 1968年生、秋田県秋田市出身。麻布十番在住
- 立憲民主党所属、港区議会元副議長
- 2003年初当選 現在6期21年
- NPO法人みなと子ども食堂副理事長
- 麻布消防団団員、東京都動物愛護推進員、防災士、栄養士、温泉ソムリエ
- 家族：夫、娘（高校生）
- 趣味：琴、ジョギング



HP



blog



X



Instagram



Facebook